

大会名 Competition	第39回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-115	Year Month Day Time 2026 年 5 月 5 日 16 : 00
場所 Place	NODENアリーナ(能代総合体育館)

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB					
能代科技	<table border="1"> <tr><td>9 1st 28</td></tr> <tr><td>27 2nd 18</td></tr> <tr><td>22 3rd 19</td></tr> <tr><td>20 4th 21</td></tr> <tr><td>0 T</td></tr> </table>	9 1st 28	27 2nd 18	22 3rd 19	20 4th 21	0 T	桜 丘
9 1st 28							
27 2nd 18							
22 3rd 19							
20 4th 21							
0 T							
78 ●		86 ○					

主審:Crew chief
工藤 美香 秋田
副審:Umpire
佐々木 飛翔 秋田
遠田 亘 秋田
テーブルオフィシャル:Table officials
能代高校 女子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
0	×	松田 来翔	cap	5	1	1	0	2	1	×	竹内 光一	cap	18	1	6	3	0
4	/	金 隼輝		11	1	4	0	1	4	/	森 蒼心		2	0	1	0	0
8	/	下田 瑛斗		2	0	1	0	0	5	/	波多野 碧音		2	0	1	0	2
9	/	黒澤 啓太		0	0	0	0	1	7		ブリス レキナター		-	-	-	-	0
12	/	大嶋 遥佳		11	1	3	2	2	11	/	小川 泰乃丞		6	0	3	0	2
13	×	信太 虹輝		21	3	4	4	3	13	×	前田 晴舞		9	0	4	1	1
15	×	岸部 瑛大		17	3	4	0	5	16	/	水野 良太郎		0	0	0	0	1
17	×	熊澤 隼		6	0	2	2	1	18		森 奎都		-	-	-	-	0
18	×	永井 瑛都		0	0	0	0	1	19		佐藤 隼斗		-	-	-	-	0
22		鈴木 秀哉		-	-	-	-	0	22	/	平澤 恵太		4	0	1	2	0
25	/	大倉 悠暉		2	0	1	0	0	23		尾崎 夏希		-	-	-	-	0
32	/	阿部 颯唯		3	1	0	0	0	24		万江 駿汰		-	-	-	-	0
34		畠山 蒼馬		-	-	-	-	0	31	/	竹内 海吏		8	0	3	2	2
44		工藤 祥		-	-	-	-	0	32	×	竹本 虹輝		11	0	5	1	1
64		倉持 駿成		-	-	-	-	0	33	/	ケイウ 大允		0	0	0	0	0
									34	×	水野 誠太郎		2	0	1	0	4
									42	×	モハト マー		24	0	10	4	0
									51	/	大井 佑悟		0	0	0	0	0
コーチ		長谷川 聡						0	コーチ		水越 悠太						0
Aコーチ		遠田 貴大						0	Aコーチ		山辺 正幸						0
合計				78	10	20	8	16	合計				86	1	35	13	13

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P% イントシュート 2P:2P% イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	21	26.92%	信太 虹輝
2	17	21.79%	岸部 瑛大
3	11	14.10%	金 隼輝

1	24	27.91%	モハト マー
2	18	20.93%	竹内 光一
3	11	12.79%	竹本 虹輝

Score ranking [Game]

1	24	モハト マー	桜 丘	2	21	信太 虹輝	能代科技	3	18	竹内 光一	桜 丘
---	----	--------	-----	---	----	-------	------	---	----	-------	-----

第39回能代カップ最終戦は、ここまで全敗と苦しんだチーム同士の対戦となった。

試合開始から完全に桜丘のペース。残り6:04に能代科技がタイムアウトを取るまでに#32竹本のパワープレーや#42マーのダンクなどで0-16のランを作る。その後も攻守で桜丘が圧倒する時間が続く。残り3:07ようやく能代科技#25大倉が速攻から初得点で2-22とする。ここから能代科技は#0松田の3P、桜丘は#31竹内海のドライブなどで点を取り合う展開となり1Qは9-28で終了。

2Qも序盤は点の取り合いとなるが、能代科技のディフェンスの強度が上がったことで次第に差を詰め始める。能代科技#12大嶋の速攻や3Pが決まり流れをつかんでくると、#15岸部が2本の3Pを決めるなど一時一桁差まで追いつける。残り0:47でタイムアウトを取った桜丘は、再開後のプレーで#4森がドライブから得点し36-46で前半を終える。

3Q、能代科技#13信太がファウルを受けながら3Pを決める4点プレーを決めるなどじわじわと差を詰める。桜丘#42マーがインサイドで得点を重ねるが徐々に能代科技ディフェンスが対応するようになる。能代科技#13信太がこのQだけで11得点の活躍で58-65と7点差まで詰めて3Qを終える。

4Qもシーソーゲームとなるが、3Q終わりから流れは能代科技。1本のシュートで会場が沸くようになる。残り3:55で能代科技#13信太が3本のフリースローを全て決めたとこで72-74と2点となる。桜丘が#42マーのタップシュート、#13前田のゴール下で72-78と引き離しにかかるが、能代科技も#13信太、#32阿部が立て続けに3Pを決めて残り2:24遂に78-78の同点とする。ここでタイムアウトを取った桜丘が再開後、#32竹本のパワープレーで得点をする、能代科技はさらなる反撃ができず78-86で試合終了となった。